

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式

記述式(数値, 構造式, 文字式)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

前年同様, 大問数は15題(正誤選択は8題, 計算問題は6題), 設問の総数は18問であり, 全体の分量は前年とほぼ同じであった。また, 前年同様, 取り組みやすい問題が多く, 難易度も同程度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

正解が1つまたは2つの正誤問題が出題される。解答形式はほとんどが数値記述であるが, 一部に文字式や構造式を記述する設問も含まれる。今年は出題されなかったが, 解答の有効数字の桁数を問題文で与えられた数値から判断する問題が出題されることもある。

例年, 出題分野のウェイトは理論>有機>無機の順である。

その他トピックス

問題7について, 問題として成立していない為, 全員を正解とした旨の発表があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第I問					
1	正誤選択	無機	化学基礎・化学	典型元素を中心とした元素の性質と反応	やや易
2	正誤選択	無機	化学	遷移元素を中心とした金属元素の性質と反応	やや易
3	計算	理論	化学	電気分解, 中和反応の量的関係	やや易
4	計算	理論	化学	水酸化鉄(III)の溶解度積, pH	やや易
5	計算	理論	化学	イオン結晶の構造(CsCl型, NaCl型)	標準
第II問					
6	正誤選択	理論	化学	状態図, 物質の三態変化	やや易
7	正誤選択	理論	化学	反応速度, 化学平衡	標準
8	正誤選択	理論	化学	気体	標準
9	計算	理論	化学	CO ₂ の水への溶解	標準
10	計算	理論	化学	反応熱と結合エネルギー, 解離熱	やや易
第III問					
11	正誤選択	有機	化学	分子式C ₁₀ H ₁₄ の芳香族化合物	標準
12	正誤選択	有機	化学	カルボン酸の性質と反応	やや易
13	計算	有機	化学	トリペプチドのエステル化生成物の分子式の決定	標準
14	正誤選択	有機	化学	合成高分子化合物	やや易
15	記述	有機	化学	3つのフェニル基をもつ1価アルコールの構造決定	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全分野にわたって, 標準的な練習問題を十分に学習すること。標準的な問題を確実に得点することが重要であり, いたずらに難問の演習をしてもあまり意味がない。

過去問の研究を怠らず, 解答形式などにも慣れておくこと。